スクラムを組んで！
青少年健全育成

寄居町青少年健全育成町民会議（矢部伸昭会長）では、青少年健全育成を広域的、総合的に推進するため、町内関係団体および機関と共に活動を展開しています。日々の活動から感じたことなどを、それぞれの立場からメッセージとしてお寄せいただきました。

6月に開催された寄居町青少年健全育成町民会議の総会

「子どもたちのために ～寄居町青少年健全育成町民会議の活動～」

寄居町青少年健全育成町民会議
会長　矢部　伸昭

寄居町青少年健全育成町民会議は、次代を担う子どもたちが心豊かに成長することを願い、家庭・学校・地域が一体となった活動を進めています。本会は昭和62年に発足し、町内の各学校をはじめ、青少年育成推進員、主任児童委員など各団体の代表者ら41人で構成されており、事務局は生涯学習課に置かれています。ここでは、今年度取り組んだ主な活動についてご紹介します。

○青少年育成埼玉県民会議への参加

県民会議は、個人100人と140の団体で組織されています。会長の上田県知事は総会で「子どもたちの世代を超えた地域での交流が希薄になっている。青少年育成市町村民会議の活動が、子どもたちの地域交流促進の一助となってほしい」と強調されました。

○青少年の非行・被害防止キャンペーン

7月には町内3中学校区の児童生徒健全育成協議会が中心となり、寄居駅、鉢形駅、男衾駅、用土駅、桜沢駅やコンビニ前で青少年の非行・被害防止を呼び掛け、3日間で延べ93人が参加しました。

○研修会の実施

6月の総会後に実施した研修会では、寄居警察署の少年補導員を講師にお招きし、「子どもを守るための基礎知識」というテーマでお話を伺いました。

また、8月に実施した視察研修には15人が参加し、東京都文京区にある独立行政法人情報処理推進機構（IPA）を訪問しました。IPAの方々からITを活用するうえでの情報モラルや情報セキュリティなどに関する専門的なお話を伺い、活発な質疑応答が交わされる充実した研修会となりました。

○その他の取り組み

役場1階ロビーで青少年の非行・被害防止啓発パネル展示や広報誌「スクラム」の発行、寄居町防犯大会への参加など、今年度も地域に密着したさまざまな活動に取り組みました。

現在、子どもたちを取り巻く環境は、憂慮すべきものがあります。「地域のつながり、コミュニケーションが豊かなところは、地域社会が安定している」といわれています。

これからも皆さんと共に「寄居の子どもは寄居で守る」をモットーに、活力と笑顔あふれる町づくりを進めていきます。

「ありがとう」あふれる寄居町に

寄居小学校
校長　関根　宏

寄居小学校は、平成25・26年度寄居町教育委員会より「人権教育」の研究委嘱を受け、同和問題をはじめとする多くの人権問題の解決を目指して研究に取り組んできました。

研究主題を「豊かな心をもち、共に支え合う児童の育成」とし、小学校の人権教育に視点を置き、国語、道徳、特別活動、特別支援教育を中心に全教科・全領域で研究に取り組みました。特に、児童の「豊かな心の育成」を目指し、「温かい人間関係を目指したグループ活動の充実」を副題として、人と人とのかかわりを大切にした「スキル学習」にも積極的に取り組みました。さらに、児童同士のコミュニケーション能力の向上や言語活動の充実を目指し、「きずな学習」と名付けた「話し合い」活動の時間を多く取り入れた授業の展開を図りました。

▶関根校長（写真左）と元気良くあいさつする寄居小1年生

研究を推進するに当たり「ありがとうあふれる寄居小」をキャッチフレーズに、「あいさつ通りの設定」や一日何回ありがとうと言えたかをシールで表す「ありがとうの花」作りにも取り組みました。

本校では、日ごろのあいさつの中に自然と「ありがとうございました」が言えるよう、授業の終了時やいろいろな行事の終了時に大きな声で「ありがとうございました」と感謝の気持ちを表現してきました。また、全校で「ありがとうの花」の歌を手話を使いながら合唱したり、校長講話で「ありがとう」の言葉の大切さを話したりしてきました。そのような取り組みから、多くの児童が素直に「ありがとう」と言えるようになり、本校は「ありがとうあふれる学校」になってきました。

本校にとどまらず、町内すべての青少年や町民が誰に対しても感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」と言い合えるような「ありがとうあふれる寄居町」になってくれることを願っています。

「共に育もう地域の宝を」

寄居中学校区児童生徒健全育成協議会
会長　長谷川　弘幸

町民の皆様におかれましては、日ごろより青少年の健全育成にご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、子どもたちを取り巻く社会情勢は変化し、価値観の多様化によって、これまでの考え方だけでは子育てを語れない状況となっています。そのような中、私自身が育ってきた環境や子育てを通じて、家庭だけではなく子どもたちを「地域社会」の中で育てていくことの重要性を日々感じています。地域のお祭りやスポーツ・文化活動に参加することは、年代が違う大勢の人たちと交流することにつながり、相手を思いやることや自分の思い通りにならないことがあるなど、社会に出たときに必要な事柄をたくさん学ぶことができます。子どもたちの健全育成のために、今後一層地域の力が大事になると思います。

▶寄居中学校の校門前で行われる朝のあいさつ運動

また、今年一年間中学校のあいさつ運動に参加して、元気よくあいさつをしてくれる生徒が大勢いるということを知りました。しかし、一つ残念に感じたのは、あいさつはしっかりしているものの、中には朝食を食べないで登校する生徒がいたということです。一日一日を精一杯過ごすため、さらには子どもの将来のためにも、この年代までにしっかりとした基本的生活習慣を身に付けてもらいたいと思っています。特に、あいさつや食生活などは、青少年たちだけの問題と捉えるべきではなく、我々保護者や大人たちがしっかりとした手本を示し、大切な習慣であることを粘り強く伝え、導いていく必要があるのではないでしょうか。青少年の心や体を育むのに大事なことは、意外と基本的なことだと思います。

親が子を思い、子が親を思うという優しさの連鎖が、家庭や学校、地域を安定させていくと思います。今こそ、我々大人たちの力を結集し、地域の宝を共に育てていきましょう。